



プロバスだより

2014年4月10日発行

東京八王子プロバスクラブ

第221号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

編集・発行：情報委員会

創立 1995年 10月 18日

気軽に交流を楽しむクラブ

2013～14年度 テーマ ー優れた運営の仕組みを継承し、会員活動をより楽しくしようー

第 221 回例会

日 時：平成 26 年 3 月 13 日 (木) 11:30～13:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：66 名 欠席者 5 名 出席率 93%

(会員総数 71 名 休会 0 名)

会食とハッピーコイン披露

戸田例会委員長の合図で会食を始め、会食中に土井副会長より 14 件のハッピーコイン (後掲) の披露があった。

1. 挨拶 荒会長

2 月 27 日に開催されました生涯学習サロンの開講式では、斬新な式次第の掲示等もあって、当クラブがまだまだ後期高齢者年齢にも負けず、よりダイナミックに活動している様子を内外に示してくれました。

開講式には八王子市長石森孝志様、八王子市教育長板倉仁様にお出まし頂き、過分な祝辞を賜ったことは当クラブの活動を引続き高く評価して下さっていることの表れと、改めて感動致しました。また特別講話の小河原正己先生の「いま『万葉集』が面白い」も、カラフルな講演要旨を印刷した冊子を配布して頂き、ゆったりした講演を堪能できました。ご出席くださいましたサロン一般会員の方々にも満足して頂けたのではないかと思います。そして私としては、内山地域奉仕委員長はじめ委員の力量の一端を見せて頂きましたので、この後のサロンの展開を楽しみにしております。

また、案内された学習サロンの概要紹介をみますと、「話し手」は会員が担当しますので、どうしても同じ氏名が目につきますが、お話の内容は前回から引き続き同じテーマの研究を続け、その中間報告的なものから、新たなテーマに挑む

ものなど、様々あって良かったと思えました。

会長報告事項

「東京八王子プロバスクラブ創立 20 周年」準備室の件；昨年 11 月の例会で「クラブ創立 20 周年記念事業」を行うと発表させて頂きましたが、その為の準備室を立ち上げました。

2. パースデーカードの贈呈

3 月生まれの会員、田中信昭、高橋敏夫、市川昌平、荻島靖久、土井俊雄、根本照代、大串延子、阿部治子 (写真左から、敬称略) の 8 名に会長よりパースデーカードが贈呈された。



3. 卓話「能狂言を楽しんでみませんか」

内山 雅之

能狂言と申しますと、「狂言」という意味と、



「能と狂言」の意味と二通りあります。今日お話するのは、狂言についてです。

1) 狂言の歴史

猿楽と言うのは、奈良時代に中国から伝わった「散楽」に始まると言われております。その後、室町時代の初めに、猿楽の能が社会に地歩を占めた時に、狂言は能に対立するものとして完全成立したと言われております。

物語の要素の強い能楽に発展したものが、猿楽の「能」であり、本来の猿楽に近いお笑い芸となったのが猿楽の「狂言」であると言われております。

2) 狂言と能の違い

能は文語体であり、「歌舞劇」といえます。「万葉集」「古今集」「源氏物語」「平家物語」「源平盛衰記」「古事記」「日本書紀」などを題材としています。特に、縁語、掛詞、序詩、枕詩、和歌からの転用等が多い。それに反し、狂言は口語体であり、「台詞劇」とあると言えます。日常的なもの、又は民間説話を脚色したものが多い。登場人物が現実世界の人間で、喜怒哀楽を描き親近感が持てます。言葉は室町時代の言葉も一部に使われていますが、現在の人にとっても理解しやすい面があります。

3) 能・狂言の台本

発生以来、即興的な滑稽演技に、語り・歌舞などの要素を適宜混じえ、台本の書き留めもなく流動しながら演じられた狂言は、中世の終わりから近世初期にかけてようやく定着・固定の時期に入り台本が作られるようになりました。しかし、台本が整備されるようになったのは、江戸時代に入ってからです。

4) 流派

能には観世流、宝生流、金春流、金剛流、喜多流と五つの流派があります。

狂言では現在は大蔵流と和泉流の二流派の並立時代。大蔵流は東京・関西に、和泉流は東京・名古屋に主として勢力を張っています。

大蔵・和泉流のほかに鶯流がありましたが、明治時代に滅亡しました。

5) 特徴

① 動作

能は膝を少し折り、すり足で演ずる、歩行の芸術能であり、狂言も同様の動作で演じる芸術と言えます。江戸時代の武家の作法から来た習慣のようです。

② 種別

狂言には本狂言と間狂言とがあり、間狂言は、能の中に登場し、人物を紹介したり、舞台の展開を説明したり、時には面白おかしくストーリーを盛り立てる役もこなします。

③ 装束

装束の違いは、能は華麗な衣装を着けますが、狂言は大変シンプルな衣装を着けます。太郎冠

者の服装は、狂言袴（肩衣・半袴）、スツパとか旅姿は肩衣と括袴（袴を括ってキャハンをつける）。小名物の主は長袴、大名は素袍姿に鳥帽子。女性の装束は、能は能面を着けますが、狂言は直面で縫箔、女帯、美男カズラをつけるだけです。足もとにも違いがあります。能は白足袋を履きますが、狂言は白足袋は履けず薄い黄色の足袋を履きます。

④ 役柄

主役と脇役は、能にあってはシテ、ワキといいますが、狂言では主役はシテですが、脇役は、ワキと言わずにアドといえます。

6) 分類

演目としては現在まで確実に伝えられている狂言は、357番。ただし、各流派の1部の伝書に収められているところは、120番前後から200番くらいのもので、虎巻本では代表的なものは165番に尽きるとしています。

4. 幹事報告 馬場幹事

1) 3月理事会関連

会長から「創立20周年準備室」（案）の提案があり承認されました。外部の関連諸機関との折衝や手続き等の対応が必要な時期に来ていることを勘案し、昨年11月に座談会を立ち上げたが、その「創立20周年に関する座談会」を準備室へと発展させて、3月中に設立するというものであります。メンバーは、

① 創立15周年以降の歴代会長及び幹事(来年度予定者を含め10名)

② 歴代交流担当(4名)

③ 参加を希望される会員(本準備室への参加を希望される会員がおられましたら、今週中に幹事まで申し出てください。)

当面の課題は、事業構想の検討・課題の抽出・予算措置の検討・タイムスケジュール調整などです。第1回会合は3月中に予定しています。

なお、15周年記念誌に記載されている通り、本準備室は、これから「準備委員会」更には「実行委員会」へと移行して行くこととなります。

5. 委員会報告

(1) 例会委員会 戸田委員長

本日の会員総数71名、出席者数66名、欠席者

数5名、出席率93.0%です。

(2) 情報委員会 田中委員長

山口会員の編集になる「プロバスだより第220号」を発行しました。新たな編集可能者が一人増えました。ホームページについては寺田副委員長のご努力で確実に更新されていますので、是非アクセスしてみてください。

(3) 会員委員会 荻島委員長

会員名簿の追加がありますので、本日お配りしたものを貼りつけてお使い下さい。

(4) 研修委員会 河合委員長

特になし

(5) 地域奉仕委員会 内山委員長

- ・2月27日に生涯学習サロンの開講式があり、出席数は一般サロン会員が73人、PC会員が63人の合計136人でした。
- ・今日からいよいよサロンの講座が始まります。
- ・閉講式とさよならパーティーの申込書の提出をお願いします。

(6) 交流担当 立川会員(全日本・会長代行)

鎌倉プロバスクラブから以下の案内がありました。5月9日(金)11時から鎌倉プリンスホテルにて親睦交流会開催予定。又、シニアダンディーズに刺激を受けて合唱団が発足した。

6. 「宇宙の学校」報告 下山運営本部長

4月25日に実行委員会を予定しており、新年度の活動計画を決定する。

7. 同好会報告

(1) ゴルフ同好会 米林会員

5月22日多摩地区3クラブ合同コンペ予定。

(2) カラオケ同好会 杉山会員

早速2月27日に第1回を開催(詳細報告6ページに)、3月20日に第2回を開催予定。

(3) 歴史の会 土井俊雄会員

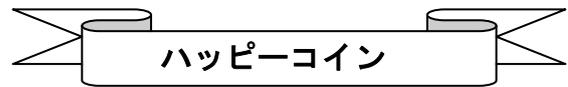
3月22日江戸下町史跡めぐりを計画した所、16名の参加希望者があった。

8. プロバスソング斉唱

9. 閉会の挨拶 土井俊玄副会長

本日の内山会員の能狂言の卓話は大変興味深いものでした。会員の皆様方の中には海外経験をお持ちの方も多いと思いますが、日本人のアイデンティティーというものを考えるとき、日本の伝

統文化を知っていないと困る場面があるとよく聞きます。必ずしもその道に精通していなくても、聞きかじりでもいいから、知っておくということが必要だということです。そんな意味からも今日の卓話は大変貴重なものだったと思います。さあこの後はサロンの第1週目が始まります。宜しく。



*第18回プロバスサロンを祝して、私も18年目を迎えることが出来ました。土井 俊玄

*天国の母よりのプレゼント。12年前死亡した母の預貯金残高の連絡が入り主人はじめ妹達大喜び。根本 洋子

*3月の誕生日を祝うかのように故郷静岡では黄色いレンギョウの花が咲き誇っていました。プロバスクラブでより豊かな幸せが見つかりますよう頑張っていきたいです。根本 照代

*来週韓国へ「スジエビ」食べに行ってきます。野口 浩平

*先月のカラオケ同好会に19名の会員が集いました。登録会員25名となりました。今月の第2回例会もよろしくお願い致します。

杉山 友一

*久しぶりに出席することができました。未だ体力、気力ぼちぼちですが、お付き合いの程よろしくお願い致します。澤渡 進

*いささか旧聞になりますが、昨年末の某商店街大売り出しの景品抽選で、天体望遠鏡が当たりました。早速月でも眺めようかと思いましたが、「気が狂ったと思われるから、やめて!」と家内が申しますので、孫に譲ることにしました。

佐々木 研吾

*孫が立川高校合格。万々歳。次は赤門。親馬鹿ならず、「じじばか」の夢。東山 栄

*ハッピーバースデー。自分で!! 名医に囲まれて何とか命を永らえております。これから!

大串 延子

*77回目の誕生日を迎えました。支えてくださった人々に感謝です。それと素晴らしい誕生日カードを下さり、プロバスクラブにも感謝です。

市川 昌平

*上の男孫は就職、下の女孫は高校、それぞれに進路が決まりハッピーな春になりました。私は元気で見守りたいと思います。

有泉 裕子

*初めてのハッピーコインカードです。入会させて頂きありがとうございます。

鈴木 はるみ

*ハッピーカードは、今回で2枚目となりました。有り難うございます。満65歳となります。

ハッピー、ハッピー。 高橋 敏夫

*孫3人がそれぞれ入園、小、中入学とお祝いが続きます。また櫻の花見、桃の花見とお花見予定が一杯です。食事会、飲み会が続きますが、ハッピーです。

飯田 富美子



天声人語書き写し

吉田 信夫



一昨年7月、会長を務めることになった時、例会での挨拶の材料を得ようと、朝日新聞の天声人語欄の「書き写し」を始めた。以来、それが今日まで続いている。我が家では、新聞販売

店の営業努力のお蔭で、朝日新聞と読売新聞を6か月ごと交互に購読しており（このことで、販売店からは何も貰っていない）、厳密に言うと、天声人語と編集手帳の「書き写し」と云うことになる。

最近、天声人語の「書き写し」が人気で、専用のノートも売り出されているが、これは利用せず、普通の大学ノートを使用している。元来、自分は字を書くのが苦手だったが、最近はパソコンのお蔭でそれを意識しないでいたが、その環境が一変した。

「書き写し」を始めて良かったことは、正しい漢字の確認が出来たことと文字を丁寧に書くようになったことである。また文章を正しく書くことが難しいことも経験した。出来るだけ文章を記憶して書こうとするので、集中力を欠くと間違える。ひらがなを漢字で書いたり、その逆だったり、句読点を入れそくなったり、違う漢字を書いたり

など、書き間違いの種類は多かった。しかし、書き続けているうちに間違いは減ってきた。

平成24年9月20日付の朝日新聞に、天声人語の「書き写し」による「脳トレ」の記事が出ていた。これは「最初1分間に文章を記憶し、出来るだけ多くの文字を正しく書く」というものである。その正しく書ける文字数は若い時は多いが、年齢と共に減ってくる。10代では目標値84字、平均値30字、以後年をとるにつれて、次第に減少し70代後半では目標値29字、平均値17字となること。但しこれは「脳トレ」の努力をすれば、向上もしくは現状維持が出来ることである。

自分は、目標値達成は諦めたが、書き写しを続けていると、記憶力が少しは向上したのではと思える。予想外だったのは、本を読むときの集中力がついたことである。今までは本を読んでも内容を理解しにくかったのが、なんとなく頭に残る気がしてきた。問題は、毎日書くということである。1日書かずにいると、翌日は2日分と増える。1日分を書き写すのに約25分かかるので、3日以上となると大変である。気に入った文章だけを書くという方法もあるが、これはやっていない。

「書き写し」の効果と課題は以上だが、現在の「書き写し」はマンネリ化しかかっている。そろそろ終わりにするか、老化防止のため続けるか、考え時である。

ところで、当初の目的であった例会挨拶の材料は皆無であった。

声楽事始め

山形 忠顕



高等学校への進学は、都立小石川高等学校と東京教育大学附属駒場高等学校（以後、教駒）を受験し、迷った挙句、教駒を選んだのであるが、今にして思うとそれが声楽の道への疎水だった。

昭和20年、新京で父と水盃をかわして離別し、何とか平城の避難民生活を生き延び、無一物で内地に引き上げてきて以来、一家4人、母の細腕で必死にその日を生きる毎日であった。まして、余裕のある生活、「音楽」の世界を志向することなど全く考えられることではなかった。そのような

状況下、声楽の道を選択することになってしまった伏線が少々ある。

幼時からいつも母（武蔵野音楽学校声楽科出身）の歌を聞いて育ったこと、音楽好きの父母が電蓄でかけるレコードで軍歌、独唱（関屋敏子、藤原義江）、合唱（ドン・コサック）、交響曲（ベートーヴェン）などを耳にしていたこと、ハルビン・キタイスカヤの歌舞饗宴、歌舞伎座の舞台、祖母と浄瑠璃、叔父のアコーディオンを見聞きしていたことなどである。しかし、所謂、音楽の稽古事は全く受けていなかった。

小学校では、学芸会の劇中で独唱させられた記憶がある。

中学校に入ると、ハーモニカ・バンドに入り合唱の楽しさに夢中になり、昂じて南部信喜先生（全日本ハーモニカ連盟副会長）の個人レッスンに通い、独奏コンクールに出場したことがあった。音楽担任の先生が我が家の事情を察して個人的に映画や演奏会に連れて行って下さったことは、就中、音楽への強い興味関心を抱かせた。映画「カーネギー・ホール」「歌劇王カルーソー」「未完成交響楽」「愛の交響曲」「ラブソディー」、近衛管弦楽団や音協定期演奏会などであったが、今考えると不思議なのは、二期会旗揚げ公演オペラ「ラ・ボエーム」を聴いていたのだった。しかし乍ら、母子世帯の生活では、早く高等学校を卒業し給料を貰えるようになることしか考えていなかった。

教駒に入学すると生活は一変した。学校は草創期（我々は5期生）でリベラルな校風が横溢していた。全国から進学してきた優秀な同期生たちは一流大学を目指して猛烈に学業に励んでおり、自分も彼らに倣って勉強したが、次第に、到底及ばぬことを実感せざるを得なくなった。唯一、慰めとなったのは、音楽部の男声合唱、そして学外の東京ジグア카데미（社会人の混声合唱団）の「メサイア」だった。中学校2年で変声し低音が出るようになっていたので、バスパートを大声で張り上げるのは楽しく痛快だった。教駒は、附属中学校にしか音楽担当教師は居らず、高等学校には音楽の授業がなく、音楽部の活動も生徒のみの自主活動だった。全校的に蛮カラではあるが不思議

に音楽的雰囲気もあった。音楽室の使用は自由で、いつも誰か歌い、ピアノを弾き、レコードを聴いているのだった。秋の文化祭には演劇部、音楽部が活躍し、年に一度は一流演奏家を招待して校内コンサートが行われた。天才少年渡辺茂君のヴァイオリン独奏、田村宏とプロムジカ弦楽四重奏団（岩淵竜太郎ほか）のピアノ五重奏曲「鱒」は衝撃的だった。

2年次の夏、突然、附中の音楽担当教師から自分の主催するピアノ発表会（直近の東京大学同窓会館で実施）での独唱を依頼された。断るわけにもいかず、兎に角、「ラルゴ/ヘンデル」などを独唱した。ところが、後日、素質があるからと声楽の道へ進むことを勧められたのである。戸惑っているうちに、専門家の判断を受けることになってしまった。まず高田信一先生（作曲家・東京芸術大学教授）の許へ連れていかれ、オーディションの結果、「良かろう」ということで推薦されたのが柴田陸先生であった。あの中学校2年次に聴いたオペラ「ラ・ボエーム」の主演ロドルフォを演じられた柴田先生その人だったのである！先生は二期会の創設者で、数多のオペラ出演する当時日本随一のテノールで、また東京芸術大学教授を務められ、八面六臂の活躍をして居られた。程なく先生のオーディションを受ける機会に恵まれ、幸いに認められて門下生に加えられることになった。

入門が許されると、まず当面の目標は音楽大学合格ということで、その受験準備をするように指示された。声楽（歌曲、アリア）の他、ピアノ、新曲視唱、聴音書取、楽典、語学（イタリア語、ドイツ語）である。楽典や語学は自学自習するとしても、その他は専門の先生に就かなければならない。そうすると、先生への謝礼は少なくとも8,000円以上必要である。仕方なく思い切って母に相談すると、そのような謝礼を出す余裕はない、総て独力でやるのなら反対はしないと云われ途方に暮れてしまった。しかし、受験まで1年半、躊躇している時間はない。先立つものはないが、実践する他ないと勉強をはじめた。そうして半年、金銭的に苦しく、到頭どう仕様もなくなった時、「目下の謝礼は免除。出世払い。いつでもよい。」

と柴田先生が言われたのである。道が拓けた！他の門下生に引け目を感じることなく、晴れて声楽レッスンを受けられることになった。お陰で、他のレッスンではその後も苦労が続いたが、何とか切り抜け受験へ漕ぎつけられたのである。

今年は恩師の生誕 100 周年、没後 25 周年である。改めて厚き師の恩愛に満腔の感謝の念を捧げている。

俳句同好会便り 河合 和郎

私の一句～3月の句会から。 時ならぬ2月の大雪、そして雛祭りや季節の題材が7句。いい句が沢山の句会でした。

古雛や京菓子添へて華やぎぬ 石田 文彦

いい雰囲気の一句。色とりどりの華やかな京菓子が目に浮かぶ。おひな様もさぞご満足を。

天からの便り積りて雪二尺 池田ときえ

雪も程々なら天の恵みだが程度を越すと雪害に。リズムよく平明に詠んで佳句。

二月堂春呼ぶ行の火の粉散る 立川富美代

お水取りの行事を詠んで動きのある佳句。大松明が駆け抜ける勇壮な景が浮かぶ。

手に馴染む椀の丸みや浅瀬汁 田中 信昭

日常を詠んで秀句。肩に力が入らない作品に出合うとほっとする。身の回りに材料が一杯。

春めきて家持の歌口ずさむ 飯田富美子

万葉の恋歌をふと口ずさむとは何と優雅なことか。俳句の恋うたにも期待大。

寒き春草木の目覚め遅れをり 東山 榮

今年は寒い冬だったので桜の開花も遅れがちとか。草木の目覚めを心待ちしている作者。

雪溶けて畑の描きし墨絵かな 吉田 信夫

着眼がいい。雪解けの畑を題材に素晴らしい。佳句。黒白の対比で鮮やかな景が浮かぶ。

磯料理掲げし宿のつるし雛 馬場 征彦

磯料理の宿と吊し雛の取り合わせが面白い。句の材料はどこにでも。磯料理の味もさぞ。

被災地は五人囃子の音も絶え 渋谷 文雄

何もかも流されてしまった被災地。早や3年。いつになったら楽の音が聞かれるのだろうか。

嫁ぎし娘飾りし雛と孫を待つ 山形 忠頭

雛祭りに孫が帰ってくるのを楽しみにしてい

る爺と婆。ほのぼのとした平穏な日々。佳句。

きらめきつ雪解雪のリズム急 河合 和郎

春の大雪。日が昇ると屋根の雪はキラキラと輝きながら早いリズムで溶け落ちる。



カラオケ同好会発表



「カラオケ文化を通じて、日常のリフレッシュをはかり、明るく元気で和気あいのシニアライフを目指します」を目的として掲げ、同好の士を募りましたところ

24 名の方が登録されました。

2月27日の発会式には19名の出席で、大いに盛り上がりました。本会は出入り自由と



しております。今後もふるって登録されますようお願いしております。

杉山さんがカラオケ同好

会の効能の解説に面白いことを言われました。私たちは日頃、色々なストレスがあります。毎日それが溜まりがちです。しかし、カラオケを1曲歌うと1日



の4分の1

のストレスが発散する。つまり4曲歌えば、その日は心身とも晴れやかであるというわけです。カラオケ同好会に参加して皆さんもその効用を満喫しませんか。



(宮城安子記)

編集後記

2回目の編集でしたが、前回より四苦八苦で、矢崎元会員、下山会員の手助けを受け、ヤット完成しました。見苦しいところがあると思いますが御容赦下さい。

会員No73 山崎修司